

JR瑞浪駅周辺地域は、瑞浪市の中心市街地であるものの、まちの賑わいの低下や、建築物の老朽化など、多くの課題を抱えている。そこで「未来の子どもたちに渡せるまち」をコンセプトに、瑞浪らしさを活かした多世代交流空間をつくり、まちの活性化や賑わいの創出を図り、まちの魅力向上及び生活環境の向上を目指している。南エリアについては市街地再開発事業、北エリアについては複合公共施設の整備を中心としたまちづくりを行う。

駅北エリア

老朽化が進む市内の公共施設の再編成を進めるなかで、駅北エリアに、中央公民館や図書館、福祉関連施設等の既存施設を集約し、新たな機能を加えた複合公共施設の整備を検討している。

新たに整備する施設を「東濃地域や市民のサードプレイス（自宅、学校・職場以外の居心地の良い場所）」と位置付け、カフェ等を併設したサロンのような図書館や式典等を行うことができるホール、充実した貸しスペースや学習室等を整備し、誰もが気軽に立ち寄って時間を過ごすことができる居心地の良い空間を作り、さまざまな目的で多くの人に利用される複合施設を目指す。



今後のスケジュール

いつごろ？（予定）	何をするの？（できること）
令和4年から令和5年度	整備手法の検討・土地建物の調査
令和6年から令和7年	地盤の調査・基本及び実施設計
令和8年から令和9年	工事の着工
令和10年以降	複合施設の開業

※スケジュールは概ねの時期であり、変更になる可能性があります。

駅南エリア

既存の商店街や住居が立ち並び駅南エリアでは、地権者の方々による市街地再開発事業が検討されている。駅に隣接する利便性の高い場所に、地権者だけでなく新たに住みたい人も入居できるマンションと、飲食店やスーパー・コンビニ等のお店が入った再開発ビルを整備。併せて、子どもたちが安全に遊べる芝生広場、歩いてみたくなるまちなみを整備し、地域住民だけでなく多くの市民が訪れて、憩えるような場所とすることで、中心市街地として賑わうまちを目指す。

目指すまちの実現に向け、賑わいづくりや、市民ニーズ検証のための社会実験として、駅前広場等において、キッチンカーの出店や、マーケット等のイベントを開催している。



南北エリアの連携

駅南エリアと駅北エリアを含め、瑞浪駅周辺が一体となって、まちの魅力向上・活性化を目指している。南北エリアの移動の利便性を高め、快適かつスムーズに往来ができるように、既設地下通路の高質化や、北口改札設置など、JRと南北エリアのアクセス方法についての検討が進められている。

今後のスケジュール

いつごろ？（予定）——— 何を？（できること）

保留床処分の目途～概ね2年	———	準備組合活動、地権者合意形成、都市計画の決定
～概ね2年	———	本組合設立・事業計画の認可、権利変換計画の認可
～概ね2年	———	建物等の補償、本体工事

※再開発ビルの住宅・商業部分(保留床)の入居需要等によってスケジュールが左右されるため、概ねの期間のみ示します。